



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

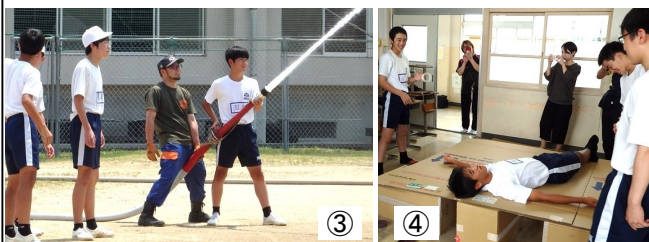
東日本大震災や能登半島地震で、小学生が避難生活に役立つ新聞を作ったり、中学生が避難所の運営を手伝ったという話を聞きました。活動内容によっては、子どもたちも十分、支援の輪に加わり、力を発揮できることでしょう。

8月8日、野尻中の3年生が避難所運営訓練を行いました。内容は…(数字は写真の番号)

- ◆ 防災講話「避難所で中学生ができること」
- ◆ ロープワーク(生活に役立つ結び方)①
- ◆ 新聞紙のスリッパづくり② ◆放水体験③
- ◆ ドローン操作体験 ◆ 段ボール寝床づくり④
- ◆ 無水カレー作り など

当日の夕方、日向灘を震源とする大きな地震が起きました。防災の話聞き訓練を見学していただければ、災害への備えの大切さを改めて考えさせられました。

今後、学校が避難所となり、子どもたちが何らかの役割を担うこともあるでしょう。南海トラフ巨大地震への注意喚起がなされている今、学校と地域が連携して対策を講じておくことが望まれます。



【協力】市役所危機管理課・野尻地区消防団・社会福祉協議会・SVC(災害ボランティアネットワークセンター)・西諸県広域消防・3年生保護者・PTA 役員 等

紙屋中 平和学習「朗読劇」



実際の出撃の写真



帽子を振っているのがお父さん

【あらすじ】遺書が届き、息子の最後の様子が知りたいと、父親は知覧基地に向かいます。しかし、死んだと思っていた息子は、機体の故障で引き返し、明日改めて出撃することになっていました。父子は最後の夜を語り合って過ごします。翌日、息子は軍刀を父に遺して出撃。戦死しました。

終戦後、武器の供出を免れるため、父親は遺品の軍刀を真つ二つに折ります。武器ではなくなった形見の軍刀は、今も、実家で大切に保管されています。

延岡出身の特攻隊員、黒木少尉の実話を基にした朗読劇「蒼天の向こうへ」です。演じたのはサラムやざき(声優・俳優スクール)の皆さん3名。迫力いっばいに演じられる朗読劇を、生徒たちは最後まで真剣な表情で鑑賞していました。

【劇団員】戦争はどうして起きたのか、なぜしなければならなかったのか、興味をもってください。

【生徒代表】当時の人々の思いを想像していました。戦争について考えることは今後に繋がると思います。

幸ヶ丘小 木工教室

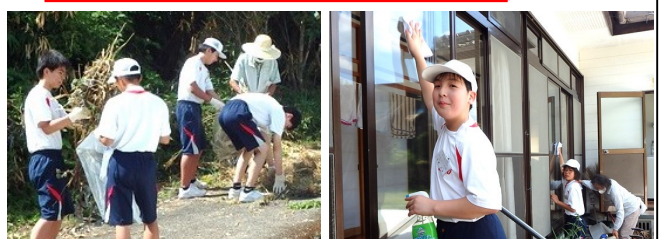
【協力】西諸地区
森林組合



放課後子ども教室の活動です。全校児童が参加しました。クイズを交えた木材についての話を聞いた後、森林組合が準備した材料を使い、真ん中の仕切りがスライドする本立てを作りました。

子どもたちは家族に手伝ってもらいながら、上手にくぎを打ち、組み立てていました。夏休みの木工教室は、椅子やポストなど、毎年作品を変えながら10年以上続いています。

須木中 暮らしの困りごと助け隊



社会福祉協議会須木支所と学校が連携し、夏休みと冬休みに実施しています。この日は、ふるさとセンターで生徒22名とサポーター8名が

裏に続きます

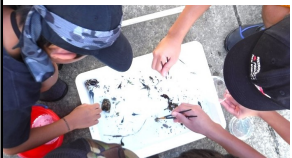


顔を合わせた後、4班に分かれて地域の住宅を訪問。暑い中、1時間ほど庭掃除やガラス拭きなどを行いました。その後、ふるさとセンターで修了証明書をもらい、全員が感想を発表して活動を振り返りました。

【協力】ボランティア連絡協議会
民生児童委員・友愛クラブ



水質・水中生物調査(霧島・小林探検隊)



場所はかくれ念仏洞近くの永久井野川。市内の小学生18名(7校)、中学生4名(2校)が参加しました。

最初に目を閉じて自然の音を聞き、周囲の自然と人工物を観察しました。水質と透明度を調べた後は生物の調査。網やバケツを手に、魚や昆虫を採取して名前や生態を調べました。子どもたちは冷たい流れの中で、暑さを忘れて熱心に活動していました。

【協力】小林市生活環境課・小林保健所
小林市子ども会育成連絡協議会



「霧島・小林探検隊」は社会教育課が行っており、学校を通じて隊員を募集しています。7月には熊本県御船町の恐竜博物館を見学しました。

職員研修(史跡めぐり)



【説明】井上さん(社会教育課)
【見学】二原遺跡公園・仲間の田の神・新田場の田の神



夏休み中の1日、新規採用と9~11年目の先生11名が小林の文化財について学びました。



仲間の田の神

中央公民館での井上さんによる講話「文化財を活用した学習」の後、バスで二原遺跡へ。初めて訪れた先生も多く、興味深く説明を聞き、見学していました。

市内には50近くの指定文化財があり、多くの学校が史跡や郷土芸能を授業に取り入れています。

しかし、ここ数年、さまざまな事情で行われなくなった活動もあります。今後、子どもたちに地域の魅力を伝えるためにも、文化財がより身近になる取組が増えてほしいと願っています。

細野小 そばの種まき

4年生



細野地区営農組合(瀬戸山会長)とJAこばやしの協力で、細野保育園横の畑で、園児も参加して行われました。

子どもたちは地域の方に教えてもらいながら、手の甲を下に向け、種が指の間からこぼれ落ちるようにまき、15分ほどで終わりました。

そばは非常に生長が早く、2~5日で発芽します。細野小では10月中旬に花の観察会(スケッチ大会)を行い、11月20日頃に収穫の予定です。

【瀬戸山会長】スケッチ大会では賞状も準備します。

いい絵を描いてください。

【児童あいさつ】初めてだったので、楽しかったし、うれしかったです。ありがとうございました。

こばやし未来創造塾「起業家サミット」



小中高校生が約30名、大人も10数名が参加して、夏休み中の「学びの1週間」の中で行われました。

最初は、鹿児島県始良市の廃校を再生して私立小学校を作るプロジェクトに中心的なメンバーとして携わっている高校1年の女子生徒の報告。地域おこしへの熱意と行動力に驚かされました。

その後、ひなもり銘木の丸野さんを始め3名の起業家がそれぞれの会社について紹介。起業に至った経緯や事業内容についてお話してくださいました。話を聞いている子どもたちの真剣な表情から、「本当に聞きたい話を聞いている」という印象を受けました。

今回のサミットには、子どもたちが高い志や意欲、創造力を持ち、自立した人間として育ってほしいという願いが込められています。